

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全で安心な居場所で小さな成功体験を積み重ねることで、生徒を社会参画する市民として育て、社会に送り出すセーフティーネットとしての学校をめざす。

- 1 個に応じた学習指導の工夫に努め、学力の向上を図る。
- 2 生徒の自己実現を支援する進路指導を推進する。
- 3 豊かな心や社会性を育む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

(1) 「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。

ア 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取組みを推進する。

イ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」の肯定率を令和5年度には85%とする。(H30:76% R1:80% R2:79%)

※教員向け学校教育自己診断における「授業改善」の肯定率を令和5年度には90%とする。(H30:79% R1:86% R2:70%)

※生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率を令和5年度には80%とする。(H30:68% R1:67% R2:77%)

2 キャリア教育及び進路指導の充実

(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。

ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。また、そのための生徒支援体制を充実させる。

イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。

ウ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒に理解を深めさせる。

※生徒向け学校教育自己診断における「教職員のカウンセリングマインド」の肯定率を令和5年度まで90%を維持する。(H30:78% R1:91% R2:96%)

※生徒向け学校教育自己診断における「保健室など教室以外の所での居場所」の肯定率を令和5年度には80%とする。(H30:65% R1:66% R2:65%)

※生徒向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を令和5年度には85%とする。(H30:78% R1:74% R2:74%)

※保護者向け学校教育自己診断における「進路情報周知」の肯定率を令和5年度には90%とする。(H30:80% R1:100% R2:50%)

※学校斡旋の就職内定率を令和5年度まで90%以上を維持する。(H30:100% R1:90% R2:50%)

3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。

ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。

イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における項目「学校行事」の肯定率を令和5年度には90%とする。(H30:79% R1:70% R2:67%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「主体的な活動の支援」の肯定率を令和5年度まで90%以上を維持する。(H30:92% R1:91% R2:82%)

※生徒向け学校教育自己診断における「挨拶の励行」の肯定率を令和5年度には90%とする。(H30:79% R1:80% R2:69%)

(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。

ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

イ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する

※生徒向け学校教育自己診断における項目「人権学習」の肯定率を令和5年度には90%とする。(H30:77% R1:76% R2:85%)

※教員向け学校教育自己診断における項目「人権教育の推進」の肯定率を令和5年度まで90%以上を維持する。(H30:100% R1:91% R2:87%)

4 学校運営体制の確立及び人材の育成

(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。

ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。

イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。

※教職員向け学校教育自己診断における項目「分掌や年次の連携」の肯定率を令和5年度には80%とする。(H30:71% R1:86% R2:78%)

※教職員向け学校教育自己診断における項目「会議の有効機能」の肯定率を令和5年度には80%とする。(H30:75% R1:62% R2:57%)

(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。

ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。

(3) 業務改善を通して、働き方改革を進める。

☆ これらの取組を通して、単位修得率の向上を図り、卒業率を高める。あわせて、中学校夜間学級出身者や編入学・転入学等の生徒の学びなおしの学校としての機能を高める

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○得点の高い項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：学校は生徒の意見をよく聞いてくれる。《91.4%》</p> <p>保護者：学校は子どもの教育について家庭と積極的に連携している。《88.9%》</p> <p>教職員：生徒指導において、家庭との緊密な連携ができています。《95.2%》</p> <p>「教育活動に対する項目」</p> <p>生徒：授業はわかりやすく楽しい。《91.5%》</p> <p>保護者：子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。《80.0%》</p> <p>教職員：生徒のレベルに応じた分かりやすい授業をつくる努力をしている。《100%》</p> <p>「学校に対する項目」では、昨年度と同様に教員と生徒・保護者とのコミュニケーションに関する項目で肯定率が高かった。日常的に様々な場面において、教員が生徒や保護者との連絡を密に行っていることがうかがえる。</p> <p>「教育活動に対する項目」では、昨年度と比べて生徒と保護者から「授業が楽しい」など授業に関する項目が高い評価を得た。教員が生徒の学力や学習状況を踏まえて授業の内容や展開を検討し、生徒・保護者がそれを肯定的に捉えているという関係性がうかがえる。授業改善や工夫の結果、生徒にとって「分かる・できる授業」の展開を学校全体で取り組む姿勢が定着し、楽しいと思える生徒が増えたと捉えられる。</p> <p>○得点の低い項目</p> <p>「学校に対する項目」</p> <p>生徒：授業や部活動での活動を通して、地域の人々と関わる機会がある。《63.8%》</p> <p>保護者：この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。《30.0%》</p> <p>教職員：地域の人々と接する機会を持っている。《33.3%》</p> <p>「教育活動に対する項目」</p> <p>生徒：あなたは学校へ行くのが楽しい。《66.1%》</p> <p>保護者：子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。《70.0%》</p> <p>教職員：人権尊重の教育において、参加体験型の学習内容・方法を取り入れている。《66.7%》</p> <p>「学校に対する項目」では、昨年度と同様「地域の人々との関わり」「行事への参加」の肯定率が低い結果となった。活動時間やコロナ禍などの点で制約はあるが、生徒に社会参画の経験を積む機会を用意するという点から、地域と連携した取り組みを検討していく必要がある。</p> <p>「教育活動に対する項目」に上がっている項目は、他の項目に比べて低い値を示したものであるが、評価自体は昨年度と比べると概ね改善傾向にある。次年度から新カリキュラムが導入されるなかで項目にあるような「新しい課題」や「問題解決的な学習」を扱うことが求められる。これまで展開し、定着しつつある教員の授業の取り組みをもとに、生徒の実情を踏まえた教材研究や授業展開の工夫を進めたい。</p> <p>○生徒の自己診断結果より</p> <p><u>学校の授業の肯定率は高くなっている一方で、「1. 学校へ行くのが楽しい」「17. 行事に楽しく取り組む」は低い肯定率となった。授業＝学校ではないと捉えられるので生徒同士のつながりや学校行事を工夫していくことで、授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間を増やしていくことが必要である。</u></p>	<p>○第1回（7月に書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による様々な制約があるなか、生徒の学びに向かう意欲の醸成に向けて、様々な取組計画を策定していただいていると感じる。 ・アンケート項目のなかで、保護者への進路情報周知の項目などが昨年度大きく落ち込んでいる点などについて、検証と改善をお願いします。 ・「保健室などの居場所」について、どのような工夫を考えているのか知りたい。 ・将来の自立や社会参加、進路実現につながるように、生徒に寄り添い、支援指導を充実させる支援体制を確立させてください。 ・授業見学用紙を授業スタンダードに内容に沿ったものに変更されたことはとても良いと思います。 ・生徒支援委員会作成の資料は、外部から学校を支援している方も支援の全容が分かり、併せて学校全体としても組織的に取り組むことにもつながり、とても良い取り組みだと思います。 ・わかる授業、キャリア教育、個別の生徒支援の充実と着実に前進している様子が伝わります。夜間定時制に限らずこの高校でも困難を抱える生徒が多い学校での「チーム学校」のモデルとなり得る取り組みだと思えます。一人ひとりの人生に、前向きな影響を及ぼす成果を期待しています。 ・生徒の中には、年配の人もいるので、若い人との間で、公正な判断と、基本的人権の配慮をお願いします。 <p>○第2回 11月24日（水）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の生徒の日本語能力はどうか。不得手な場合、通訳などのサポートは配置されているのか。また、就職時に発達障がいがあるなどでマッチングに支援が必要な生徒にはどのような支援をおこなっているのか知りたい。 ・夜間中学でネパールの人が急増している。日本語が日常会話も厳しい。大半が高校進学を考えている。お世話になる可能性があることを認識してほしい。 ・生野区ではベトナムの人が増えており、今後子育て世代が増える可能性が高い。企業含め教育支援をお願いしており、中学校では小型携帯翻訳機を利用しているところもある。 ・授業アンケートの評価が高いのは良い事である。 ・居場所事業は良い取り組みである。 <p>○第3回 2月2日（水）（書面開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の欄を見ると、一部に△はあるが、全体的に、○や◎が多く、しっかり取り組まれたことがわかる。 ・授業改善について組織的に取り組んできたことが定着し、素晴らしい成果が出ている。 ・学校教育自己診断（生徒）で、「学校へ行くのが楽しい」の肯定率が低いことは気になる。授業以外の場面での生徒の満足度を高められるよう、検討してほしい。 ・生徒の自己診断結果の安定率が、R2の70%台が、90%台にあがり、教員の工夫や改善の効果があらわれている。 ・保護者の学校に対する参加項目が3割と低い理由は何かを知りたい。 ・コロナ禍で通常の学校運営が厳しい中ではあるが、全般的に肯定的な回答が上がっている点は教職員のみなさんの努力の成果である。 ・コミュニケーションの部分で生徒の満足度が高く、個別に話を聞き対応していることがよくわかる。

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1)「わかる授業」「できる授業」「魅力的な授業」をめざした、授業改善に取り組み、主体的に学習する力を身に付けさせる。</p> <p>ア 「観点別評価」についての理解を深めるとともに、本校における観点別評価の在り方をまとめる。</p> <p>イ 授業アンケート等を効果的に活用し、校内研修や公開授業など組織的な取組みを推進する。</p> <p>ウ 一人ひとりの「学習環境」を確保するため、授業規律の確立に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・研修等を通して、「観点別評価」についての理解を深める。</p> <p>・「観点別評価検討チーム」を設置し、本校の観点別評価について検討し、カリキュラム検討委員会や教科会議を通じて本校の観点別評価についてまとめる</p> <p>イ・研究授業や教員相互授業見学期間を設定し、教員相互に授業に対する意見交換を行い、授業改善につなげる。</p> <p>・特に、「観点別評価」を意識した授業やICTを効果的に取り入れた授業を校内で公開し、教員の授業力を高める。</p> <p>ウ・全教員が共通認識を持って、スマートフォン使用や私語などに対する指導を行う。</p> <p>・全教員で指導を行うことにより、「授業規律」に対する生徒の意識向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・「観点別評価」を意識した授業の実施</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめ発表する」の肯定率 65%[71%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」の肯定率 70%[65%]。「コンピュータ等の情報機器が、各教科の授業などで活用されている」の肯定率 90%を維持[91%]</p> <p>イ・教員相互の授業見学を2回以上実施し全教員が各授業観察シートを提出する。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「他の教員の授業見学を行い授業改善を行っている」の肯定率 90%[70%]。「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率 90%[65%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「授業規律」の肯定率 75%以上を維持[77%]</p>	<p>・検討チームの実践と啓発により「観点別評価」を意識した授業が実施された(○)</p> <p>・「自分の考えをまとめ発表する」肯定率 71.2%(○)</p> <p>・「問題解決的な学習指導を行っている」肯定率 95.2%(◎)</p> <p>・「情報機器が活用されている」肯定率 100%(◎)</p> <p>・授業見学期間を2回実施し、期間内における授業観察シート提出数は1人平均2.3枚(○)</p> <p>・「授業改善に努めている」肯定率 95.2%(◎)</p> <p>・「授業方法等の検討機会を持っている」肯定率 95.2%(◎)</p> <p>・「授業規律」肯定率 78.0%(○)</p>
2 キャリア教育及び進路指導の充実	<p>(1) 将来の自立や社会参加、進路実現につながるキャリア教育や進路指導を推進するため、カウンセリング及びガイダンス機能の充実に取り組む。</p> <p>ア 一人ひとりの生活背景から理解し、生徒に寄り添い、支援・指導を充実させる。またそのための、生徒支援体制を充実させる。</p> <p>イ 卒業生や企業、大学、専門学校等の職員からの聞き取りを通して、生徒一人ひとりに将来像を確立させる。</p> <p>ウ 一人ひとりの勤労観を育成するため、適切な進路情報を提供し、生徒の理解を深めさせる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・家庭、中学校や前籍校、勤務先などの訪問や懇談週間を設定した生徒懇談などを通して生徒理解を深める</p> <p>・懇談については、どの時期にどういった内容で実施するかを明確にする</p> <p>・長期欠席の生徒について、手紙や家庭訪問などにより、個々の状況の把握に努める。</p> <p>・SCやSSW、居場所事業を活用し、外部人材や外部機関と連携して生徒支援の充実に努める。</p> <p>イ・進路総務部、担任を中心として、生徒や保護者対象の進路説明会や個別指導などを実施する。</p> <p>・進路指導の充実のために、外部人材や外部機関を有効に活用する</p> <p>ウ・進路HRや個人面談などにおいて、個々に応じた進路情報を生徒及び保護者に積極的に提供する</p> <p>・進路だよりを定期的に発行し、進路情報の見える化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・懇談などを通して、生徒の背景を把握する。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 85%[79%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率 90%を維持[96%]。</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「ケース会議などを通して生徒1人ひとりの課題について教員が向き合っている」の肯定率 90%を維持[91%]</p> <p>イ・進路HR、個人面談、進路情報提供等の充実</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路を考える機会がある」の肯定率 80%を維持[82%]</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断「望ましい勤労観職業観がもてるよう進路指導を行っている」の肯定率 85%[83%]</p> <p>・学校斡旋の就職希望者が10人以上の場合、内定率 90%以上[50%]</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「進路情報周知」の肯定率 85%[74%]</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断において、回答が10人以上あれば「進路情報周知」の肯定率 90%[50%]</p>	<p>・懇談週間等を活用した生徒の背景の把握を行い、必要に応じて職員会議等で情報を共有した(○)</p> <p>・「親身になって応じてくれる先生がいる」肯定率 85.7%(○)</p> <p>・「カウンセリングマインド」肯定率 100%(◎)</p> <p>・「課題について向き合っている」肯定率 100%(◎)</p> <p>・進路だよりの発行回数が増え、昨年度コロナ禍でできなかった保護者説明会が実施できた(○)</p> <p>・「将来の進路を考える機会」肯定率 89.5%(◎)</p> <p>・「勤労観職業観がもてる進路指導」肯定率 81.0%(△)。将来の進路は考えたものの、それが勤労観職業観までつながらなかった。</p> <p>・学校斡旋就職希望者は当初9人でうち3人が辞退。辞退者はアルバイト継続。他は全員就職(一)</p> <p>・「進路情報周知」肯定率 82.8%(△)。将来の進路を考えたうえで次に何をするか啓発が不足していた。</p> <p>・「進路情報周知」肯定率 77.8%(△)。卒業予定者以外の生徒の保護者に対する周知が不十分であった。</p>

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>3 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成</p>	<p>(1) 特別活動や生徒会活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を醸成する。</p> <p>ア 行事や生徒会活動、部活動などを通して、集団の中で人と調和し成功体験を得られるよう、生徒が主体となる活動を支援する。</p> <p>イ 人間関係形成能力を育成するため、「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2) 生命の尊さに気づかせ、自他を認める態度や人格を育成し、社会の一員としての自覚と責任を醸成する。</p> <p>ア 様々な人権問題の解決をめざし、人権教育に総合的に取り組み、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>イ 災害時等に生徒が自他の命を守ることができるよう、安全指導の充実を推進する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の学校への帰属意識が高まるよう総合学習やLHRの実施方法・内容の充実を図る。</p> <p>イ・多くの生徒が参加でき、一層充実した内容となるよう、学校行事の実施方法を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始業式や終業式、生徒集会などにおいて「部活動紹介」や「各種大会・発表会の受賞者紹介」を積極的に行い、生徒に達成感を高めさせる <p>ウ・校内において教員が挨拶を励行し、登下校時の「挨拶運動」に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・「人権教育年間計画」に基づき、教科や特別活動など教育活動全体で人権教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の人権HRの成果と課題を今年度の計画に生かす。 ・合格者説明会、受講指導等を利用し、本名指導を行う。 ・道徳教育推進教師を中心に、Ⅲ部及び定時制の課程（夜間）における道徳教育の充実を図る。 <p>イ・日常的に安全指導の充実を図り、災害時の避難行動について理解できるよう、実践的な避難訓練の実施を行い、生徒の安全に関する、意識の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の避難に対応できるよう、校内掲示等、安全対策を充実させる 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率 70%[62%]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「学校行事はみんなが楽しく行えるように工夫している」の肯定率 80%を維持[82%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向け学校教育自己診断「部活動の活性化について工夫している」の肯定率 75%[50%] <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「挨拶の励行」の肯定率 80%[69%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の肯定率 90%[85%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」の肯定率 85%[79%] ・教職員向け学校教育自己診断「人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 90%[87%] <p>イ・生徒向け学校教育自己診断「災害時の避難行動について具体的に知らされている」の肯定率 90%[84%]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」肯定率 66.1%(△)。授業以外の学校生活の場面で生徒が楽しめる時間が少なかったと思われる。 ・「行事は楽しく行えるよう工夫している」肯定率 87.9%(○) ・「部活動の活性化に工夫」肯定率 52.4%(△)。コロナ禍により年度初めの部活動紹介や大会参加への動きに制限があり、活性化への工夫に至らなかった。 ・「挨拶の励行」肯定率 88.1%(◎) ・「人権の大切さを学ぶ」肯定率 89.8%(○) ・「命の大切さやルールを学ぶ」肯定率 91.5%(◎) ・「人権学習の工夫」肯定率 90.5%(○) ・「災害時の避難行動を知らされている」肯定率 84.5%(△)。コロナ禍により前期に避難訓練という形での安全指導を実施しなかったことも要因だが、啓発の内容についても見直す必要がある。
--	--	---	--	--

府立桃谷高等学校（Ⅲ部）

<p>4 学校運営体制の確立及び人材の育成</p>	<p>(1) 迅速な意思決定により、機動力のある効率的な学校運営をめざす。</p> <p>ア 「学校組織運営に関する指針」に基づき、企画会議及び運営委員会を学校運営の核として位置づけた学校運営をすすめる。</p> <p>イ 分掌や年次会、委員会等、各組織間の連携を密にし、校務の効率化を図る。</p> <p>(2) 次代を支える教員（ミドルリーダー・若手教員）の育成を図る。</p> <p>ア OJTや教員の自主研修、研修報告などを通して、人材の育成を図る。</p> <p>(3) 業務改善を通して、働き方改革を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・企画会議、運営委員会を核とした、組織的な学校運営を進める。</p> <p>イ・分掌会議や年次会、委員会などで十分に意見交換し、取組みに教職員の意見が反映させる。あわせて、会議間の情報共有を密にし、効率化と会議間の連携を密にする。</p> <p>・すべての会議において、議事の精選、会議資料の事前配付等を行い、1時間以内で終わるようにする。1時間以上を要すると想定できる場合は事前に構成員に周知する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・経験年数の少ない教職員を対象としたOJTや教員の自主研修を通して、教職員としても基本的な力量を高めさせ、人材育成を図る。</p> <p>・職員会議等で校外研修の伝達講習を行い、情報を共有し資質向上につなげる。</p> <p>(3)</p> <p>・前年度実施した業務改善に係る調査をもとに、現状の業務を見直し、あらゆる業務が効率的で効果的となるよう改善を進める。</p> <p>・業務改善を通して、働き方改革を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、イ</p> <p>・教員向け学校教育自己診断「会議の有効機能」の肯定率 75%[57%]。「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定率 80%[70%]。「分掌や年次の連携」の肯定率 75%以上を維持[78%]</p> <p>・原則、会議時間は1時間</p> <p>(2)</p> <p>・OJT及び自主研修の実施</p> <p>・教員向け学校教育自己診断「研修成果の伝達機会の設定」の肯定率 90%[63%]</p> <p>(3)</p> <p>・昨年度の調査を活用し複数の業務について改善を行い、教材研究や授業準備に充てる時間を増やす。結果として、教員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」[83%]、「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。」[65%]を向上させる。</p>	<p>・「会議の有効機能」肯定率 71.4%(○)</p> <p>・「学校運営への教職員の意見反映」肯定率 85.7%(○)</p> <p>・「分掌や年次の連携」肯定率 85.7%(◎)</p> <p>・平均会議時間（運営委員会、職員会議）は50分弱(◎)</p> <p>・個人に仕事が偏らぬよう業務分担を工夫するとともに自主研修を実施した(○)</p> <p>・「研修成果の伝達機会の設定」肯定率 71.4%(△)。研修の回数そのものが少なかったこともあるが、誰がどの研修に参加しているかの周知の不足も一因。</p> <p>・「授業方法の検討機会」肯定率 95.2%(◎)</p> <p>・「問題解決的な学習指導を行っている」肯定率 95.2%(◎)</p>
---------------------------	--	---	--	--